

高温に対する農作物技術対策

令和2(2020)年5月29日

農政部経営技術課

気象庁発表の「1か月予報(令和2年5月28日)」によると、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みとなっています。

急激な気温上昇の際は熱中症にかかりやすくなりますので、健康管理等に注意して、次の技術を徹底するよう指導願います。

I 作物

1 水稲

- (1) 育苗ハウスの苗の徒長が懸念されるため、換気を徹底するとともにかん水を極力控える。
- (2) シメトリンを含む除草剤は高温で薬害が発生しやすいので、散布を控える。

2 麦類

- (1) 収穫した麦を長時間放置するとムレ麦となるので、収穫後は速やかに乾燥作業に入る。

II 野菜

1 野菜全般

- (1) 施設栽培(雨よけ栽培を含む)では、できるだけ換気を行い、遮光資材を展張し施設内の温度を下げる。
- (2) かん水設備を備えたほ場では、乾燥しないように天候を見ながらかん水する。
- (3) 育苗ほでは、乾燥しないようにこまめなかん水に努める。
- (4) 収穫した野菜は、できるだけ涼しい所に置き、鮮度を保つ。また、予冷庫があれば予冷庫に入れる。

2 いちご

- (1) 収穫ハウスでは、果実温度の上昇を最小限に抑えるため、早朝の涼しい時間帯に収穫を終了し、収穫した果実を涼しいところに保管する。
- (2) 親株育苗ほでは、ランナーの日焼けや先枯れ、親株のチップバーンを抑制するため換気を行い、必要に応じて遮光する。
- (3) 空中採苗施設等では、培地内が高温になりやすく、根が傷みやすいので、遮光資材等を展張し施設内気温を下げ、培地内の温度上昇を防ぐ。また、給液量が不足しないよう注意する。

III 果樹

1 果樹全般

- (1) かん水ができる園はかん水する。

- (2) 定植1～2年の苗木は、根域が浅く乾燥による影響が出やすいので、こまめにかん水を行う。
- (3) ハダニ類の発生に注意し、発生初期の防除を徹底する。

IV 花 き

1 りんどう

- (1) ハウスは換気に努めるとともに、遮光資材を展張しハウス内の温度を下げる。乾燥しないようにかん水する。
- (2) 収穫は早朝又は夕方の涼しい時間帯に行う。
- (3) 新植ほ場は、乾燥しないように天候をみながらかん水する。

2 露地ぎく

- (1) 日中葉が萎れる状態になると生育（草丈）に悪影響を及ぼすため、天候をみながらかん水する。
- (2) 地温が高い時のかん水は避ける。